

平成20年5月2日

報道機関各位

熊本大学企画部企画課広報室

**東アジア学術講演会『中国福建省の考古学と窯業』を開催します。**

文学部考古学研究室では、共同研究を行っている中国福建省の福建博物院長らを講師にお招きし、福建の漢代（ビン越国）や宋元代貿易陶磁について下記のとおり講演会を開催します。

福建省は中国の東南部にある省で、東は台湾、北は浙江省、西は江西省、南は広東省に面しています。省内の8割以上が山や丘で、その中央を西北から東南に閩江（びんこう）が流れています。省の西北には、武夷山の山塊が西南から東北方向に連なって中国の中央部との交通を遮断したため、古来独特の文化が栄えました。前漢初年におこった閩越国（びんえつこく）はこうした人々による政権で、前漢王朝と100年近く対峙しました。

**【講演1】は、その王都を長年にわたって発掘調査された楊琮先生による講演です。**

宋（10～13世紀）代になると、福建には多くの窯が築かれ、外国向けに大量の陶磁器が焼かれて、貿易港となった沿岸の港町はおおいに栄えました。陶磁器は朝鮮・東南アジアや遠くアフリカにまで運ばれ、博多や熊本、琉球にももたらされています。

**【講演2】は陶磁器研究の第一人者である栗建安先生による講演です。福建省の窯業の歴史の流れを紹介していただきます。**

ふだんあまり接することのない福建省ですが、漢代の文化や陶磁器をとおして、九州の歴史ともつながっていることを感じていただくと幸いです。

広く一般の方に知らせていただくとともに、取材方、よろしく申し上げます。

## 記

開催日時：平成20年5月16日（金） 午後6時～8時

開催催会場：熊本大学文法学部棟A2教室（黒髪北地区キャンパス）

講演 1：【福建省における漢代のビン越考古学 崇安漢城を中心に】

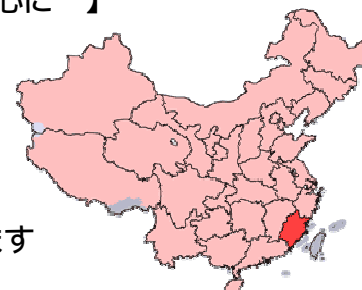
福建博物院長 楊 琮 先生

講演 2：【福建省の古代窯業 “宋元代を中心に”】

福建博物院文物考古研究所所長 栗 建安 先生

講演はいずれも通訳があります。

参加費：入場無料ですが、資料代のみ実費をご負担いただきます



～お問い合わせ先～

熊本大学文学部考古学研究室

教授 木下尚子

Tel：096-342-2446